

教育長賞

賢明学院小学校 五年

栗原 輪

「まほうのパワー」を与えられる存在に

「ねえいいじ。なんでいつもこんなニュースしか流れてへんの？」

「それは、自分勝手に欲深いからちがうか。」

これはある日の夕食、テレビでだれかをきずつけたり、悲しませるようなニュースを見たときの祖父と私の会話だ。残念ながら毎日このような悲しいニュースを目にする。私は、(なぜこんなことしちゃうんだろう。この人達だって悪いことって分かっているはずなのに…)明るいニュースばかりになればいいのにな) いつも思う。では、「明るい社会」とはどのような社会なのだろうか。私が思う明るい社会はみんなが平等で笑顔あふれる社会だ。

今、私は学校という小さな社会でくらしている。学校生活の中では、私の言葉や行動で友人を傷つけてしまい反省することがある。また、友人の何げない一言や行動で悲しんでしまうこともある。そんな事があった日は、モヤモヤした気持ちでバスからおりて自宅に向かう。でも玄関のドアを開け

「ただいま。」

というと、祖父の

「おかえり！」

という大きく元気な声が返ってくる。夕食のときは母が

「今日、学校どうやった？」

とやさしく質問してくれる。こんな家族からの声かけでさっきまでのモヤモヤしていた気持ちも落ち着いてその日を終える。また、朝にはいつも祖父が私と弟のくつをみがいてくれている。その後ろ姿からは「気をつけて元気に行ってくるんやで」という私の心を守ってくれる見えないメッセージを感じる。そして、完全に気持ちがりセットされ心が健康な状態でその日学校に行くことができる。もし、こんな家族からの一言や行動がなければ、私の心は不健康なまま学校に行き、友人にきつく言ったりしてしまうかもしれない。私の家族は、私の心を元気にしてくれる「まほうのパワー」をもった存在なのだ。

きっと罪を犯してしまう人は、そんな「まほうのパワー」を与えてくれる人がいないのではないだろうか。だから、一人で考え

こんで、本当は悪いことだと分かっているでも冷静な判断ができず感情のまま行動にうつしてしまうのだと思う。

今までの私は、こんな人達は人生が台なしになると思っていた。でもいつも母が

「人間失敗する生き物なんや。失敗しても同じことをくり返すんじゃないかってどう活かすかが大切なんで。」

と言っていることを思い出した。そして、私はある一枚のポスターに出会った。そこで犯罪や非行をしてしまった人の再出発を支えるため、地域には保護司・更生保護施設・協力雇用主・BBS会・更生保護女性会の五つの仕組みがあることを知った。その中でも私は、更生保護女性会について調べ、ある地域の一人の女性の記事を読んだ。その方は「平等に接することをポリシーとし、居場所がないと感じることが再犯罪につながる可能性があるのに温かく包んであげられる地域を築きたい」と語っていた。この方も「まほうのパワー」でよりよい地域作りを目指しているんだなと思った。

今年度私は、学校という小さな社会を明るくするため児童会に入った。演説では、

「みんながいつでも明るく笑顔でいられるような学校にするサポートを全力でしたいです。」

と話した。私は、これから学校を明るくする運動の第一歩として、

学年かわかわらず、みんなの話を聞き、たくさんの方の心を健康な状態にリセットしてあげて、私の家族のように「まほうのパワー」を与えられる存在になりたい。そして、私が大人になったときには、大きな社会を明るくするため罪を犯してしまう人ができるまえにその人の心を健康な状態にリセットし、「まほうのパワー」を与えられる存在になりたい。

